

海老名市立杉久保小学校 学校運営協議会 議事録
(令和7年度 第2回)

- 1 日時 令和7年9月25日(火) 8:50～11:30
- 2 場所 海老名市立杉久保小学校 校長室、体育館
- 3 出席委員 伊藤健三委員長、山本敏昭委員、岩崎佐容子委員、
佐藤憲一委員、山室修次委員、坂野千幸委員、坂田美帆委員
山田優委員、東優也委員

4 会議の内容

※ 9時00分～10時30分 体育館にて音楽集会を参観 その後、校長室にて協議

(1) 伊藤委員長挨拶

素晴らしい音楽集会だった。1人ひとりが自己表現し、それを外部に示すとても良い機会だった。

(2) 学校長挨拶

子どもたちが、これまでの練習の成果を十分に発揮できたと思う。担任の力も大きく、各学年力をひとつにして頑張ることができた。また、音楽専科の先生が、全学年と関わり創り上げることができた。明日は保護者に向け、発表会を行う。

(3) 音楽集会について

(佐藤委員)

- ・子どもたちがのびのび歌っている印象だった。高学年ほど上手なのが分かった。統制がとれていて、音楽を通して力が身についていた。

(岩崎委員)

- ・1、2年生も、以前の姿に比べて成長を感じた。やればできるんだ、と思った。3年生も成長した。

(山室委員)

- ・毎年参観しているが、前年を振り返り、次に繋いでいるように感じる。行事を通して得るものは多く、コミュニケーションの力を育む貴重な機会である。こういった行事を通してその力を身に付けていくことができればよい。

(山本委員)

- ・昨年度から見ているが、子どもの成長を感じる。演奏に苦手意識をもつ子もいるだろうが、同じ学年の子どもたちと互いに助け合うことが、成長につながっている。

(伊藤委員長)

- ・一時期は行事の縮小が続いていたが、機会ごとに成長していける大切な機会である。先生方の力添えに感謝している。

(佐藤委員)

- ・低学年の児童があいさつをしたときのマイクの使い方が気になった。どうすればより良くなるか。

(伊藤委員長)

- ・声が小さいと、聞こうとする意識をもつことができる。

校長先生が話す場面でマイクを使ったり使わなかったりしていたように、聞き手の意識を育てていくことも大切だと考える。

どうしても聞き取りづらいこともあるが、ちゃんと聞こうとすることもできている。

(佐藤委員)

- ・確かに一生懸命聞こうとする姿勢が大事かもしれない。

(伊藤委員長)

- ・できれば、音楽集会の校長先生の話で、運営協議会委員のことを話してほしい。

(坂野校長)

- ・あいさつに入れておらず、失礼しました。

(佐藤委員)

- ・外部の人間が来ているのは、子どもたちにとっても特別な場である。
そういった時の対応の仕方を学ぶことにもつながるのではないか。

(坂野校長)

- ・山室委員も岩崎委員も、普段とは違う立場で参観いただいた。
相手意識を持つためにも、来年度以降、話で紹介できるようにする。

(東委員)

- ・6年の担任として、今日、このように終えることができて良かった。ここぞというときに不安を感じる児童が多いが、今日は自信をもてていた。委員の皆さんに見ていただけて良かった。

(坂野校長)

- ・一番手の三年生が良かったので、子どもたちみんな意識が高まった。

(東委員)

- ・杉久保小の子どもたちみんなで作ることができたと思う。

(坂野校長)

- ・一昨年までは運動会を春に行っていたので、そこで「つくる」経験ができた。
今は運動会が秋開催になったため、音楽集会が初めて「つくり上げる」場になった。
この後、6年生がこれをモチベーションに取り組んでいけたらと願っている。
2学期は行事が多く計画されている。音楽集会はこれ以上早くはできないので、
来年度の行事計画の検討の際に考慮していきたい。

(4) 体育館改修工事について

二学期始業式の際に児童に提示したスライド見ながら、工事の様子を報告する。

(坂野校長)

- ・卒業制作の壁面飾りは、劣化によりパーツが剥がれ落ちるようになっている。
安全への配慮上、再設置は見送る。運動会で展示した後、処分する予定。

(伊藤委員長)

- ・体育館の一般開放はどうなっているか。

(坂野校長)

- ・開放はすでに始まっており、バスケットボールチーム等が使っている。
- ・冷房を使用する際にはお金を払っていただくように、機械が設置されている。

(佐藤委員)

- ・今回の改修では、体育館の耐震強化が行われているのか。

(山室委員)

- ・体育館裏の崖も、土砂災害警戒区域に指定されているので対策をしてほしい。

(伊藤委員長)

- ・植樹する樹木の種類が変わっていけば、土砂の保持力は変わるかもしれない。

(坂野校長)

- ・今回の改修では、耐震強化は行われていないと聞いている。
- これまでも避難所として扱われており、耐震基準は満たしているといえる。
- 警戒区域にあった避難所備蓄倉庫は撤去になった。
- 物資は他の場所にあるものを持ってくることになっている。

(山室委員)

- ・あまり改修をしないのは、学校統廃合の対象となるからでは、との話もあった。

(伊藤委員長)

- ・南部三校はどうなるかといった話もあったが、杉久保小は安泰だ。

(坂野校長)

- ・体育館について、今一番の問題なのは、バリアフリーになっていないことである。

(5) 学校の様子について

(坂野校長)

- ・二学期は音楽集会に向けて取り組んできた。今後の行事として1年生の遠足、5年生の野外教育活動、6年生の修学旅行等がある。10月は涼しく、学習に集中できる時期になるので、子どもたちには頑張ってもらいたい。

(伊藤委員長)

- ・わいわいフェスタはいつか。

(山本委員)

- ・12月5日(金)の午前中に実施する。

(山室委員)

- ・朝の挨拶を自分からするという児童が減っている。
- スマートフォンの長時間使用等、家庭での習慣も影響しているかもしれないが、人との直接的なかかわりの機会が減っている。挨拶はコミュニケーションを図る上で大切である。行事を通して、子どもたちに身につけていけばよい。
- ・コミュニケーションをとることが、大人も子どもも大切なのだということを発信していくことが必要だと考える。

(岩崎委員)

- ・あそびっこに来る子どもたちは、挨拶をする。あそびっこやまなびっこに参加しな

い子どもたちが、挨拶をしないことがある。

(伊藤委員長)

- ・昔は愛想があって、ニコニコしている子どももいたが…

(岩崎委員)

- ・今は減ってしまった。

(山室委員)

- ・完全に反応しない子が増えている。何かしら反応してもらえたら…。
もちろん、自ら挨拶する子もいるが、全体では減っている。

(伊藤委員長)

- ・大人になったら、知らない人とも挨拶しなければならなくなる。

(山室委員)

- ・挨拶ができると、良い印象をもたれるのだが。

(山本委員)

- ・長期休み明けだが、大人の五月病のような子がいるか気になっている。

(坂野校長)

- ・家が楽しかった子、学校に早く来たかった子、様々である。
体験格差という言葉があるが、休み中の過ごし方は、こちらも様々である。

(坂田教頭)

- ・学校に来づらい子もいるが、一学期の経験を生かして過ごしている子もいる。
ひまわりルームは賑やかになってきている。今まで先生とやっていたことが、利用
する子が増えたことで、児童同士が互いにコミュニケーションをとりながら過
すようになっている。

(坂野校長)

- ・いずれは教室に入れるようになってほしいと思う。

(坂田教頭)

- ・コーディネーターやひまわりルームに来てくれる先生と連携を取りながら、目標に
向けて取り組んでいきたい。

(6) その他

(坂野校長)

- ・今回は音楽集会を中心に学校の様子を見ていただいた。
次回は、全国学力学習状況調査の結果や学校アンケートについて話す予定。
・現在大谷中学校区3校合同で、学校教育目標についての見直しを行っている。
原案ができれば、3校の協議会の委員の皆さんに見てもらいたい。

(山本委員)

- ・PTA副会長の高橋さんがお辞めになったため、別の方が副会長に就任する。
今後、ご紹介する予定である。

※ 次回の学校運営協議会は、令和7年12月17日（水）15：00～開催予定。